

# 第 47 回 仙 台 市 中 学 校 新 人 野 球 大 会 競 技 要 項

1 期 日 令和 5 年 1 0 月 7 日 ( 土 ) ・ 8 日 ( 日 )

試 合 開 始 予 定 時 刻	
○ 4 試 合 ・ ・ ① 8:00~ の 場 合            ② 10:00~ ③ 12:00~ ④ 14:00~	○ 3 試 合 ・ ・ ① 8:30~ ( 2 試 合 )       ② 10:30~ の 場 合            ③ 12:30~

## 2 会 場 と 日 程 ( 予 定 )

大 会 会 場		7 日 ( 土 )	8 日 ( 日 )	9 日 ( 月 )	14 日 ( 土 )	15 日 ( 日 )
<b>西 地 区</b>	宮 城 広 瀬 野 球 場 秋 保 湯 元 公 園 野 球 場	○ ③ ○ ③	○ ③ ○ ③	× 予 備	全 市 予 備	全 市 予 備
<b>北 地 区</b>	シ ョ ル コ ム セ ン だ い 七 北 田 公 園 野 球 場	○ ③ ○ ②	○ ③ ○ ③	× 予 備	× 予 備	× 予 備
<b>南 地 区</b>	評 定 河 原 球 場 海 岸 公 園 野 球 場 ②	○ ③ ○ ②	○ ③ ○ ③	予 備 予 備	全 市 ×	全 市 ×
<b>東 地 区</b>	仙 台 市 民 球 場 海 岸 公 園 野 球 場 ①	○ ③ ○ ③	○ ③ ○ ③	× 予 備	× ×	× ×

## 3 競 技 規 則

2023 公 認 野 球 規 則 ， 公 益 財 団 法 人 全 日 本 軟 式 野 球 連 盟 競 技 者 必 携 及 び 市 中 体 連 野 球 専 門 部 の 申 し 合 わ せ 事 項 に よ る 。

## 4 大 会 規 則

〔 1 〕 競 技 方 法

i) 競 技 に 関 す る 事 項

- (1) トーナメント方式 7 イニング制とする。
- (2) 5 回以降 7 点以上差がついたときは、コールドゲームを宣言する。
- (3) 正式試合は、通常 7 イニングから成る。
- (4) 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合、原則として再試合にしないで、翌日の第 1 試合に先立って特別継続試合を行う。また、試合の中断及び日程の変更は大会本部で決定する。
- (5) 特別ルールについて  
 延長戦は行わず、8 回より次のような特別ルール ( タイブ레이크 ) を適用する。  
 ① 7 回終了時点からの継続打順で攻撃を行う。走者は、先頭打者の前打者を一塁走者とし、二塁の走者は順次前打者として、無死一・二塁の状態でも 1 イニング行い、得点の多いほうを勝ちとする。なお、勝敗の決しない場合には、以後も継続打順で勝敗が決するまでこれを繰り返す。  
 ② 選手の交代などは通常の規定がそのまま適用される。
- (6) 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチはミーティングに参加せず、直ちに所定の位置に着くこと。
- (7) 攻守交代の時、投手またはプレートに最も近い野手が球を投手板近くに置くこと。
- (8) 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。次打者席では投手が投手板に位置したら投手に注目し、素振りはしない。
- (9) 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は 8 球以内とするが、2 回以降は 4 球以内とする。  
 また、捕手、予備捕手は安全のためマスクをかぶる。
- (10) スパイクは白または黒の単色とする。チーム内で白と黒が混在することを認める。ゴムポイントのスパイクの使用は認める。  
**【解説】** シェルコムせんだいでは、金具のスパイク以外のシューズを使用することとする。
- (11) 金属バットについては、J S B B のマークの入った公認されたものとする。
- (12) ユニフォームは同一系統色とし、派手なものは避ける。
- (13) 捕手のレガース・ヘルメット・マスク・プロテクター・ファウルカップはつけるものとする。
- (14) 打者・走者・次打者のヘルメットはつけるものとする。(ヘルメットは両耳とする)
- (15) メガホンのベンチ持ち込みは 1 個とし、監督のみ使用を認める。

- (16) 選手交代の申し出は監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外はベンチからでないものとする。
- (17) 試合終了後のあいさつですべて完了とし、次の試合のためにすみやかにベンチをあける。
- (18) 試合進行上、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディーな試合進行を心がける。
- (19) 本塁打を打った打者に握手を求めるためにグラウンドに出てはいけない。
- (20) 『危険防止のための徹底事項』
- ① 用具は必ず規定のものを使用し、バットリング・鉄棒・マスコットバット・公認球以外のボール等、試合で使用できない用具の球場への持ち込みを禁止する。
  - ② 足を上げてのスライディングは禁止する。
  - ③ 捕手のレガース・ヘルメット・プロテクター・スロートガード・ファウルカップと、打者と走者の両耳付きヘルメットは必ず着用すること。
  - ④ 競技規則 7.06 (a) の適用について、中学校野球では「ボールを保持しているときしか走路上に位置することができない。」こととする。
  - ⑤ 試合会場での練習において、打撃練習はバントとトスバッティングのみとし、フリーバッティングなどは行わない。
- 【解説】 6.01 (i) (2)
- 捕手がボールを持たずに得点しようとしている走者の走路をブロックすることはできない。もし捕手がボールを持たずに走者をブロックしたと審判が判断した場合、審判員はその走者にセーフを宣告する。
- (21) 規則 5.10(d) 原注[前段]「投手は同一イニングで投手以外の守備についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手にもどってから投手以外の守備位置に移ることもできない」については適用しない。
- (22) 『監督が投手のところへ行く回数の制限』(5.10(1) 関連)
- ① 試合中に監督がとることのできるタイムの回数は、7 イニングに3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式)は、1 イニングに1回とることができる。
  - ② 監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度目に行くか、行ったと見なされた場合(伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところへ行かせた場合)は、投手は自動的に交代しなければならない。”中学校野球”では、交代した投手が、他の守備位置につくことが許される。
  - ③ 捕手または野手が、1 試合に投手のところへ行ける回数は、7 イニングに3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式)は、1 イニングに1回行くことができる。野手(捕手を含む)が投手のもとへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方1回として数える。逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は、監督の回数には含まない。
  - ④ 監督が、相手チームのタイム中、投手のところへ行くことは差し支えないが、プレイの再開を遅らせた場合は、投手のところへ一度行ったこととする。
  - ⑤ 監督が投手のところへ一度行くか行ったと見なされた場合は、球審は、あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、一度目に知らせなかった場合は、二度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。ただし、球審が知らせなくても、監督が、同一イニングに同一投手のところへ二度に行くか、行ったと見なされた場合は、投手は自動的に交代することになる。
- (23) 攻撃側のタイムは、7 イニングに3回以内とする。なお、延長戦(タイブレーク方式)は、1 イニングに1回とする。守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の1回とカウントされる。(攻撃側のタイム中についても同様とする)
- (24) 審判員に対しての規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接質問することができる。
- (25) 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるための行為を禁止する。
- (26) 故意に試合の進行を妨げるような行為は絶対しないこと。
- (27) 投手は1日7イニングを越えて投球することができない。ただし、タイブレーク及び特別継続試合は除くものとする。

## ii) 運営に関する事項

- (1) 出場校は、定刻1時間前に集合し、本部に通告すること。
- (2) 試合前のフィールドイングは原則として7分以内とする。但し、4試合日程では行わない。
- (3) メンバー表は、第1試合は試合開始時間40分前に、第2試合目以降は前の試合の4回終了時に5通(アウンス、対戦チーム、審判、本部、自チームの計5通)本部に提出する。
- (4) プレーヤーズベンチには、登録された者の他は、着席を認めない。  
なお、監督・コーチは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用し、背番号は監督30・コ

一チ29・28をつけるものとする。コーチの服装はユニフォームまたは正装とする。

- (5) 登録選手は、ポジション順に背番号をつけること。
- (6) 1, 3 塁コーチは、ユニホーム着用の選手に限る。
- (7) 選手交代の通告は監督が行う。
- (8) 選手の頭髪、身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合の前後においてもスポーツマンらしくマナーには十分注意すること。
- (9) 各チームの部長か監督は、球場を去る前に本部に連絡し、次の試合日程の確認を行うこと。
- (10) 不祥事を起したチームは、紛争処理委員会の裁定に基づいて年間の大会出場を停止する場合もある。(注1: 紛争処理委員会は、会長、理事長、部会長、正副委員長、正副審判長で構成する)
- (11) ベンチ以外からの指示及びコーチングは一切認めない。
- (12) 選手のテーピングは肌色に近いものを用い、投手は投球に影響を与えるものは使用できない。
- (13) 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、別紙「雨天時の連絡方法」を参考にする。
- (14) ボールボーイは必ずヘルメットの着用をすること。(各チームではなく、各会場でボールボーイ用のヘルメットを準備すること)
- (15) 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの部長・監督が責任を持って指導すること。
  - ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
  - ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。「〇〇倒せ～」とは言わない。
  - ③ 応援席周辺を散らかさない。ゴミは持ち帰る。

## 〔2〕申込み方法

- (1) 所定用紙により、抽選会当日に申し込む。
  - (ア) 各区の予選については登録人数の制限はなし。ただし、ベンチ入りの選手は必ず背番号をつけるものとする。提出した申込書と当日の背番号が異なってもかまわないが、大会期間中に背番号を変更することは禁止する。監督(引率責任者)1名、コーチ2名まで、部長1名までとする。また、選手、監督は試合用のユニフォーム、コーチの服装はユニフォームまたは正装、部長の服装は正装とする。
  - (イ) 全市大会は(2)の規定に準じる。
- (2) 1チームの編成は、監督(引率責任者)1名、コーチ2名まで、選手は原則9名以上18名以内(18名以外にスコアラーを1名おくことができる)とする。

## 【解説】

- \* 監督は当該校校長・教員・部活動指導員とし、コーチは当該校教職員または学校長が承認した外部コーチとする。
- \* 女子選手の出場も認められる。
- \* 他連盟登録の選手の出場は認めない。(二重登録の防止)
- \* 外部コーチを登録する際は、外部コーチ承認届けを登録と同時に提出する。また、他連盟所属(プロ・高野連・大学野球連盟・リトル・シニアリーグ等)のコーチ登録は認めない。

## (3) 合同チームの参加について

原則として単独校のチームでの参加を原則とするが、仙台市中学校体育連盟「複数校合同チーム参加規程」により合同チームの参加を認める。参加にあたっては専門部追加規定を厳守する。

## 〔3〕使用球

- ・ケンコーボールM号
- ・専門部で準備するが、不足した場合は各校で補う。

## 〔4〕その他

- (1) 参加費・・・4,000円  
☆抽選会で未納の学校は予選初日に必ず納めること。

\* 合同チームに関しては合わせて4,000円とする。

## (2) 表彰

- 全市大会・・・第1位……………賞状、カップ  
第2位……………賞状、楯  
第3位……………賞状

各区大会・・・各ブロック1位に賞状及びカップ、2位に賞状

## (3) 審判

- ・各区大会は主審プラス1名を野球連盟に依頼し、残りの塁審を各校顧問が協力して行う。
- ・全市大会の審判は、一日目の一会場を教員審判団で行い、残りは野球連盟にお願いする。